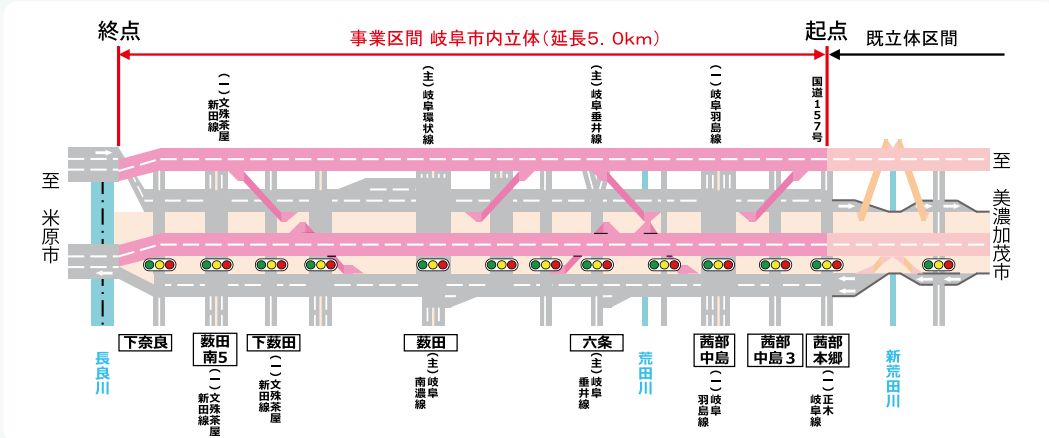


国道21号立体化に向けて 本格始動

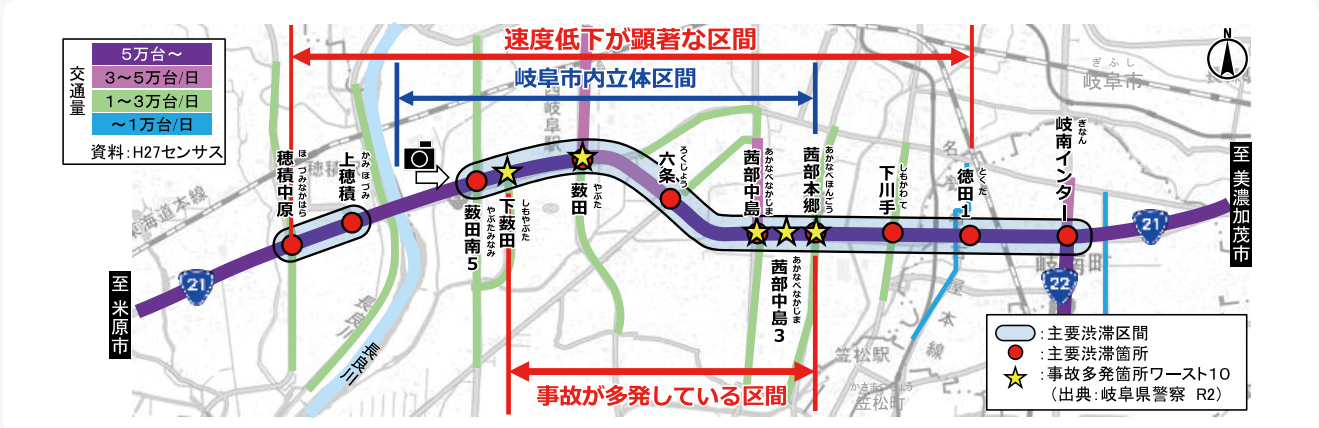
かねてより国道21号は慢性的な交通渋滞や交通事故が多発し、対策の必要性が議論されてきました。国土交通省岐阜国道事務所は5月21日、岐阜市西部本郷から高架を延伸し、下奈良までの約5kmを立体化する事業の「中心杭打ち式」を岐阜市市橋の市橋小学校で行いました。式典には、村瀬会頭はじめ、地元住民や国会議員など約40名が参加しました。1971年の計画決定から半世紀が経過し、いよいよプロジェクトが本格的に動き出しました。本号では、岐阜国道事務所で協力のもと、事業概要や期待される効果、今後の流れについてご紹介します。



模式図

整備効果 渋滞緩和・事故の減少

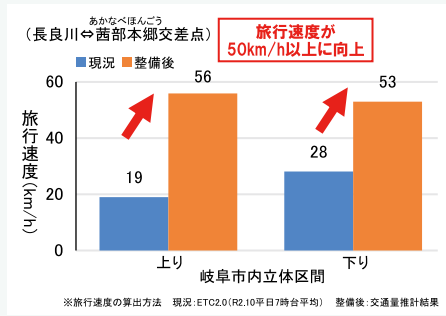
- 岐阜市内立体区間には、最大約8万台/日の交通量があり、主要渋滞箇所(1区間[5箇所])や事故多発箇所(県内ワースト10のうち5箇所)が存在するなどの課題があります。
- 岐阜市内立体の整備により、旅行速度が50km/h以上に向上することにより、渋滞緩和が期待されるとともに、事故要因の約8割を占める追突事故件数も約5割の減少が期待されます。



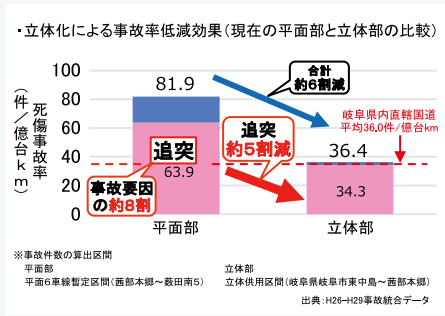
国道21号の渋滞状況と事故多発箇所



岐大バイパスの交通状況

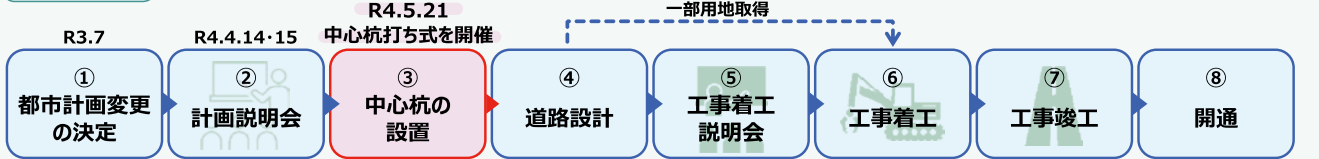


立体化による旅行速度向上



立体化による交通事故減少

事業の流れ



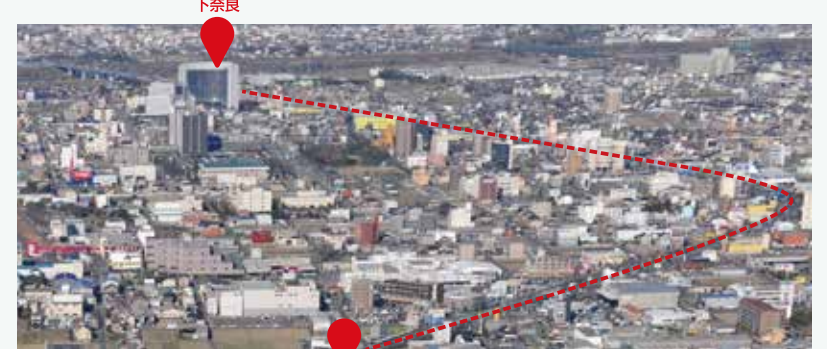
国道21号の立体化は、交通渋滞の緩和や安全性・利便性の向上、地域経済の発展に寄与する重要な事業であり、引き続き早期完成に向けた事業の推進が求められます。



中心杭打ち式の様子

岐大バイパスの一部を担う岐阜市内立体

国道21号岐大バイパスは、岐阜市から大垣市に至る延長23.9kmの幹線道路です。岐阜市内立体はこのうち、岐阜市西部本郷から下奈良の約5kmの立体化です。

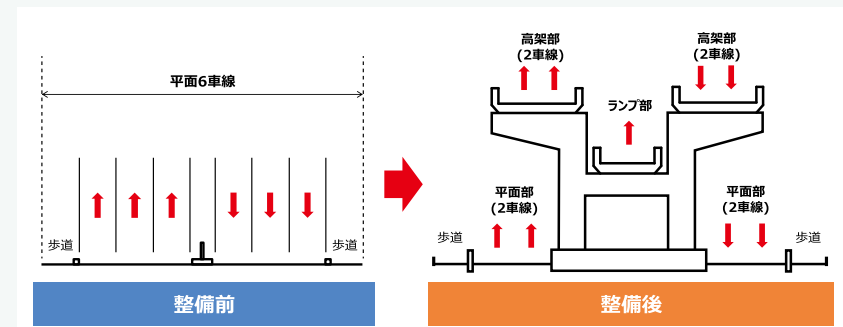


写真：岐大バイパス

事業概要

交通混雑の緩和や交通安全の確保に期待

- 国道21号岐阜市内立体は、岐大バイパスの一部として、岐阜県西南部地域の東西交通を支えるとともに、広域的な道路ネットワークを形成する重要な道路です。
- 慢性的に渋滞が発生している岐阜市内の平面6車線区間について、立体4車線と平面4車線の複断面に整備し、交通混雑の緩和や交通安全の確保が期待される事業です。



横断面図